

敦賀発電所1号機の原子炉手動停止について (湿分分離器ドレンタンク(A)からの漏えい)

敦賀発電所1号機（沸騰水型軽水炉：定格電気出力 35万7千kW）は、定格熱出力一定運転中のところ、平成22年6月10日15時05分頃、2週間に1回の頻度で実施している特別区域※¹巡視点検において、運転員がタービン建屋1階給水加熱器室内の湿分分離器ドレンタンク※²2台（A、B）のうちAタンクの保温材から水が滴下（1滴／5秒）し、下部の床面に水溜り（約1m×1m）があることを発見しました。

このため、保温材を取り外して確認したところ、当該タンクの胴部にあるマンホールのフランジ合わせ面付近からの僅かな蒸気漏れを確認しました。なお、滴下の量に変化はありません。

蒸気漏れの原因調査を行うため、本日19時頃から出力降下を開始し、23時頃に発電を停止、翌11日4時頃に原子炉を停止する予定です。

本事象による周辺環境への放射能の影響はありません。

添付資料：湿分分離器ドレンタンク（A）漏えい状況図

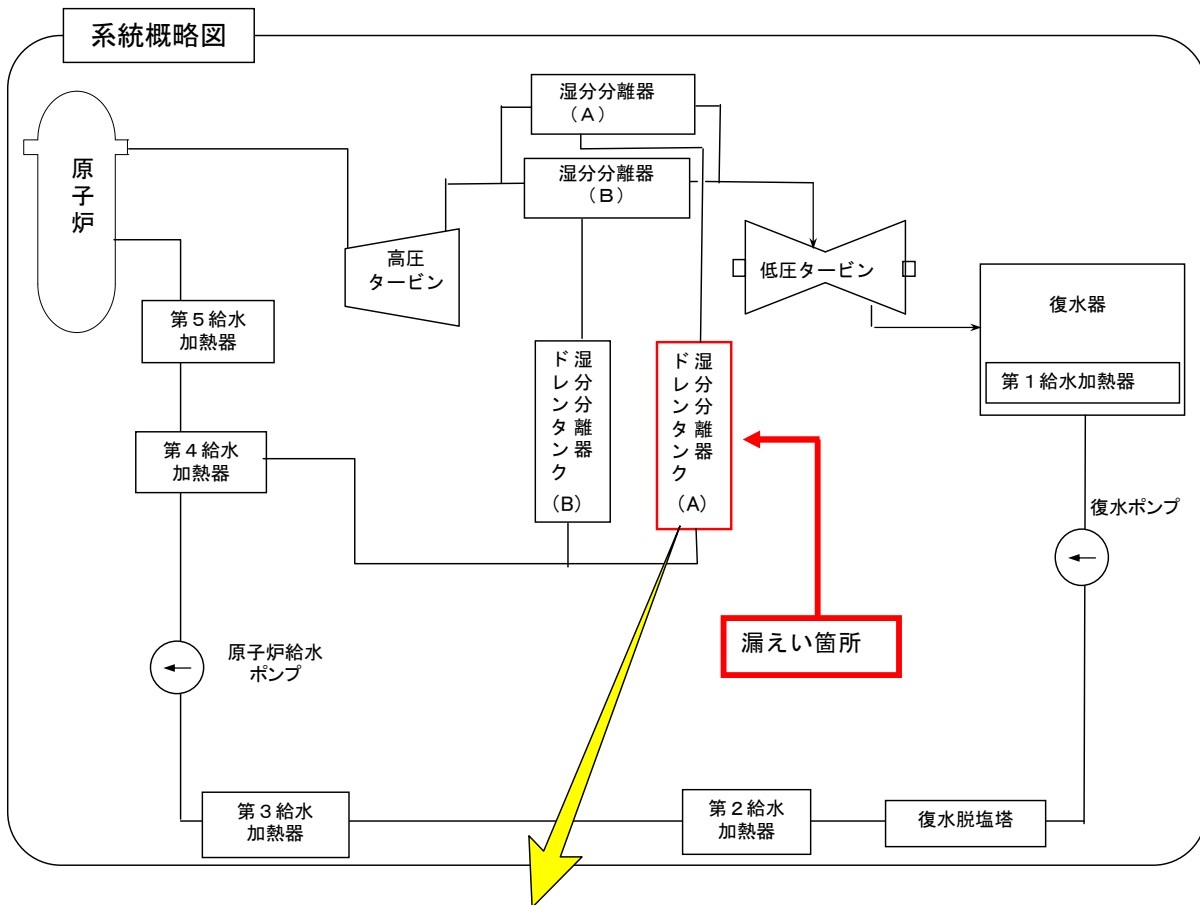
※1 特別区域

放射線管理区域のうち、線量当量率が1ミリシーベルト／時を超える箇所。運転員の巡視点検は2週間に1回の頻度で行う。

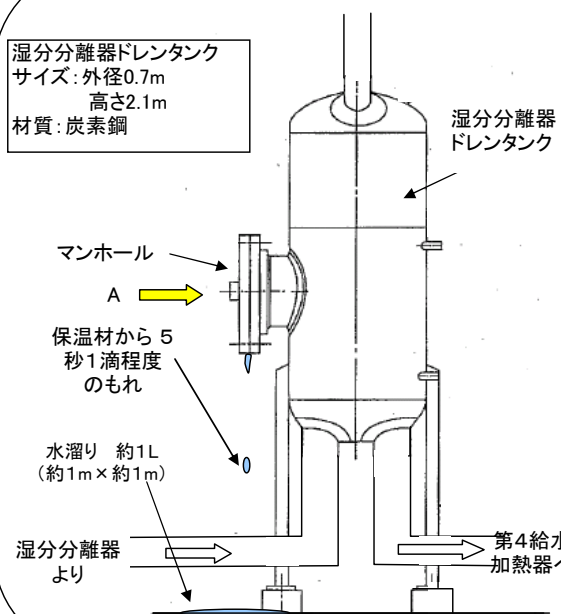
※2 湿分分離器ドレンタンク

高圧タービンで仕事をした蒸気の湿分を除去し、低圧タービンに供給しますが、この湿分を除去するときに発生するドレンを回収するためのタンク。

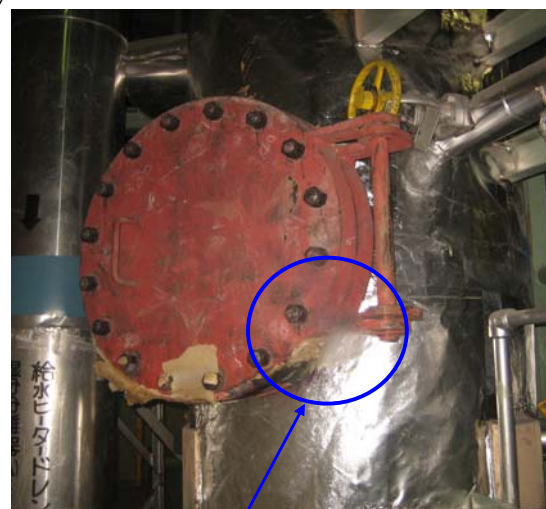
湿分分離器ドレンタンク(A)漏えい状況図



湿分分離器ドレンタンク概略図



保温材取り外し後の状況 (A方向より)



蒸気漏れ